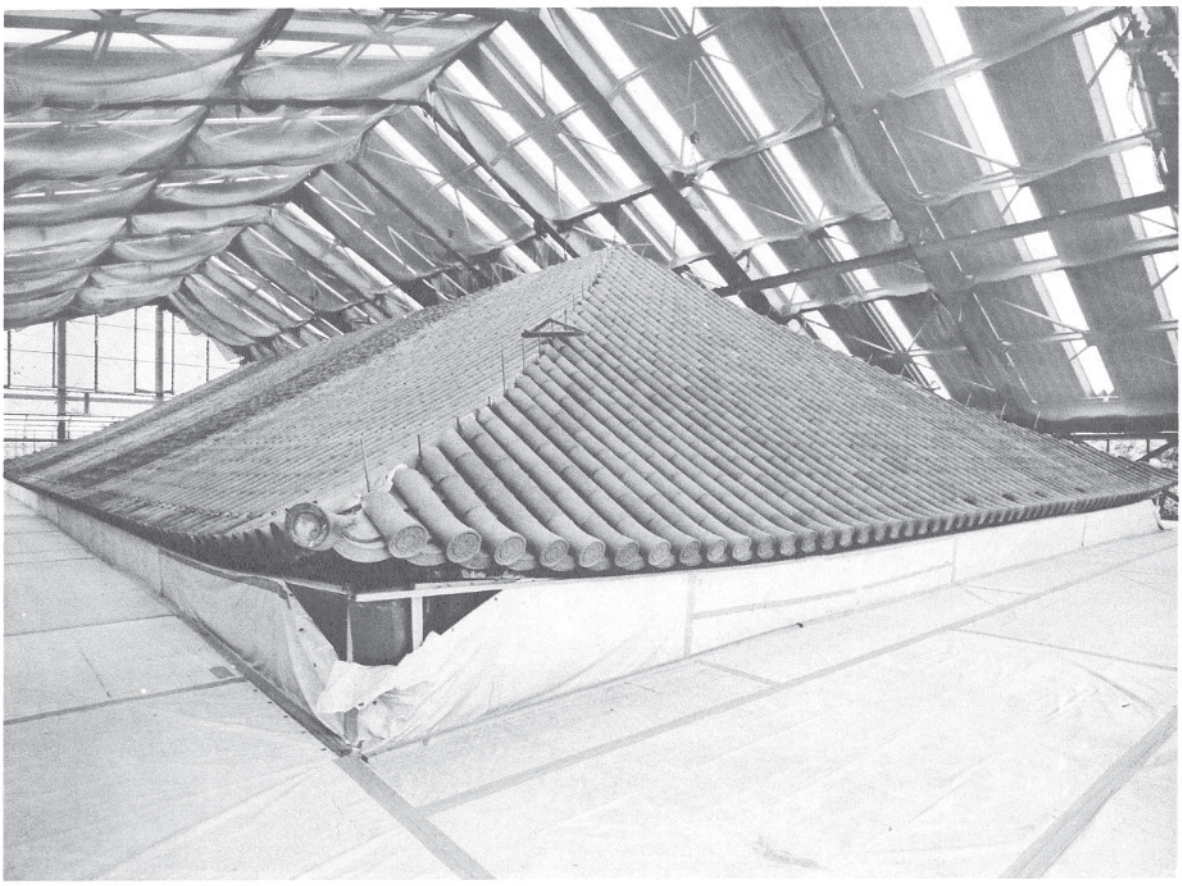
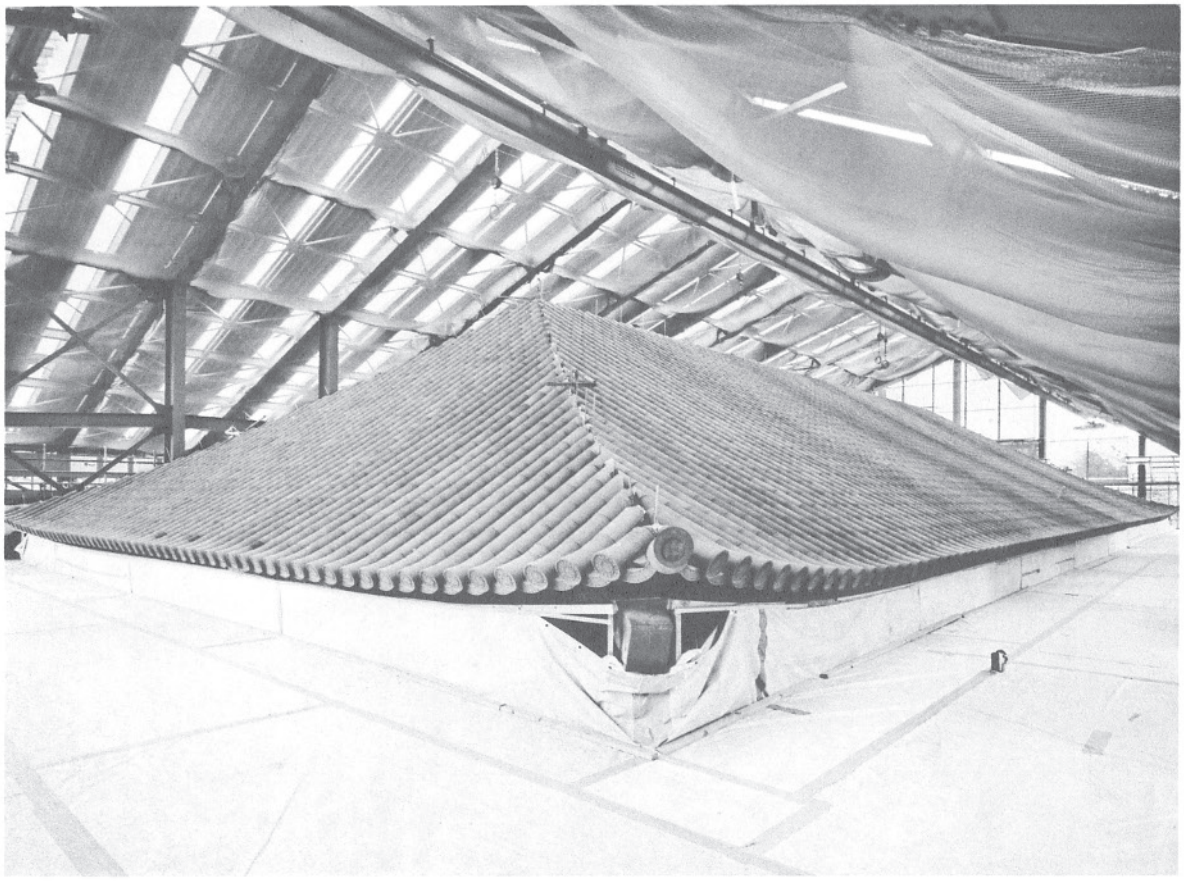


115　北面及び東面の丸瓦葺き上げ完了
東北より見る。北面は、西面同様現代製法で製作した補足瓦を葺いた。



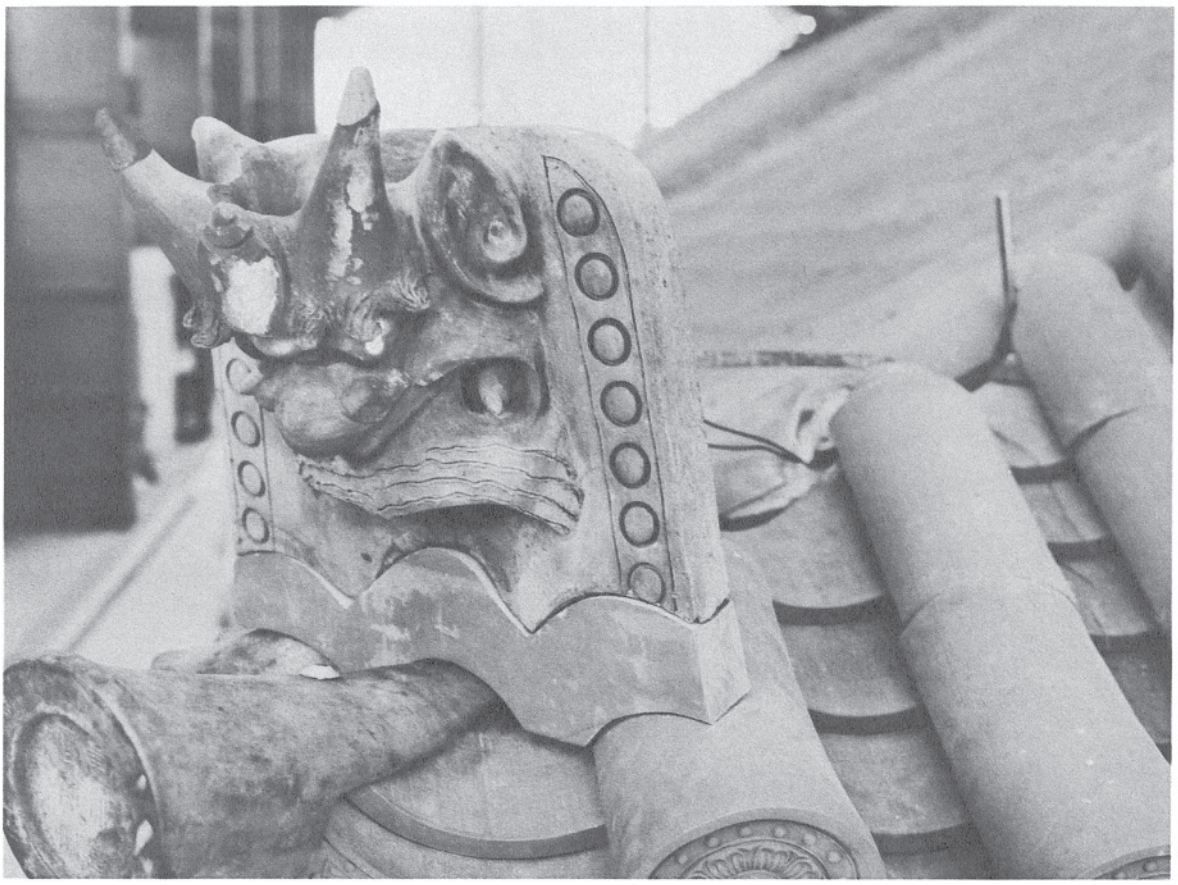
116　北面及び西面の丸瓦葺き上げ完了
西北より見る。北面及び西面はすべて補足瓦だが、いぶしを飛ばした仕上げにより落ち着いた色合いとなった。

117　東南隅の丸瓦葺き上げ時の状態

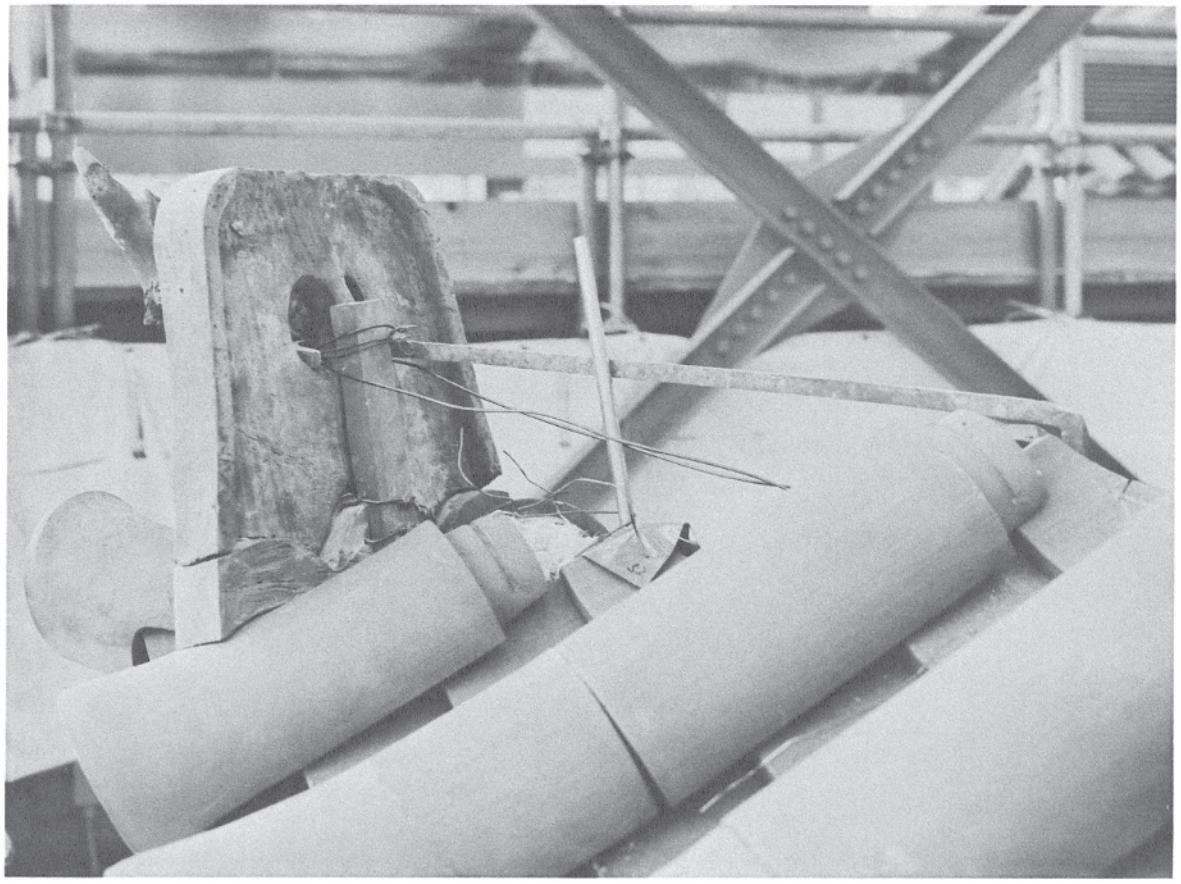
東南より見る。隅木上にステンレスの鋼棒を立て、この後鋼棒で横にも繋いで、それに熨斗瓦を結ぶことで、地震時の棟積崩壊を防ぐ。隅丸瓦（天保六年（1835）製）は破損のため取り替えることにしたが、東面及び南面の軒瓦はすべて再用瓦なので、新旧のバランスを整えるため、西北の隅丸瓦（元禄六年製）と位置を入れ替えた。

118　西北隅の丸瓦葺き上げ時の状態

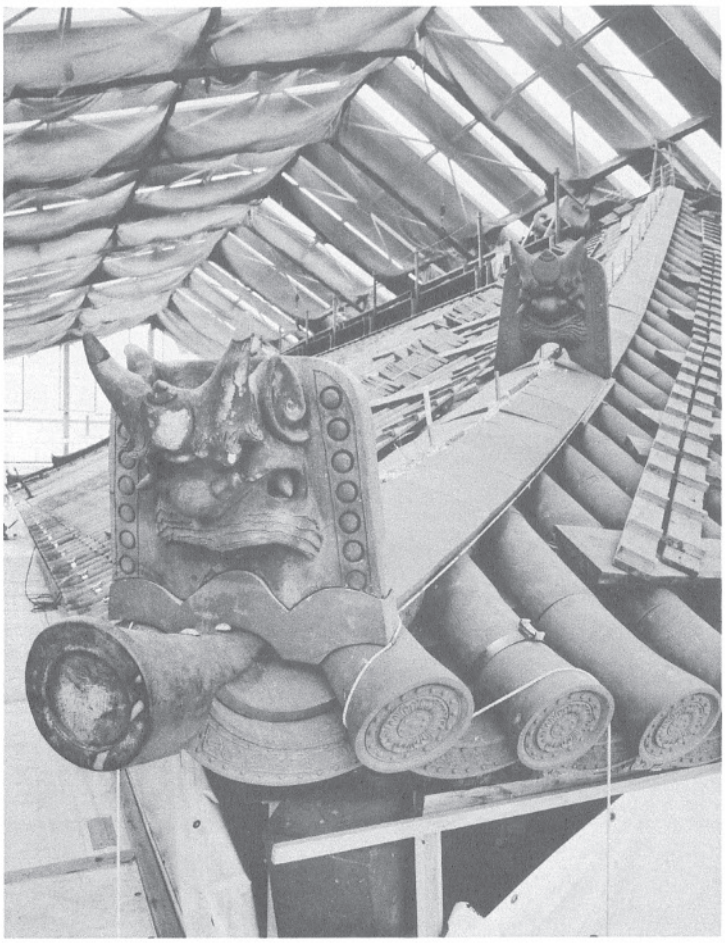
西北より見る。隅丸瓦は４本中１本を取り替えた。写真に写る瓦が取り替えた隅丸瓦。修理前は元禄六年の瓦であったが、再用瓦と補足瓦のバランスを整えるため、今回の修理で取り替える東南の隅丸瓦と入れ替え、西面及び北面は補足瓦で統一した。



119　東北一の鬼瓦の嵩上げ詳細
東北一の鬼瓦は、ほかの一の鬼瓦より成が低かった。修理前は丸瓦の瓦当と漆喰により嵩上げしていたが、不安定なので、今回の修理では下に瓦を継ぎ足し、嵩上げを行った。



120　東北一の鬼瓦据え付け背面の様子
嵩上げした瓦製の台には背面に支えの棒を伸ばし、鬼瓦の把手と銅線で結い付けた。

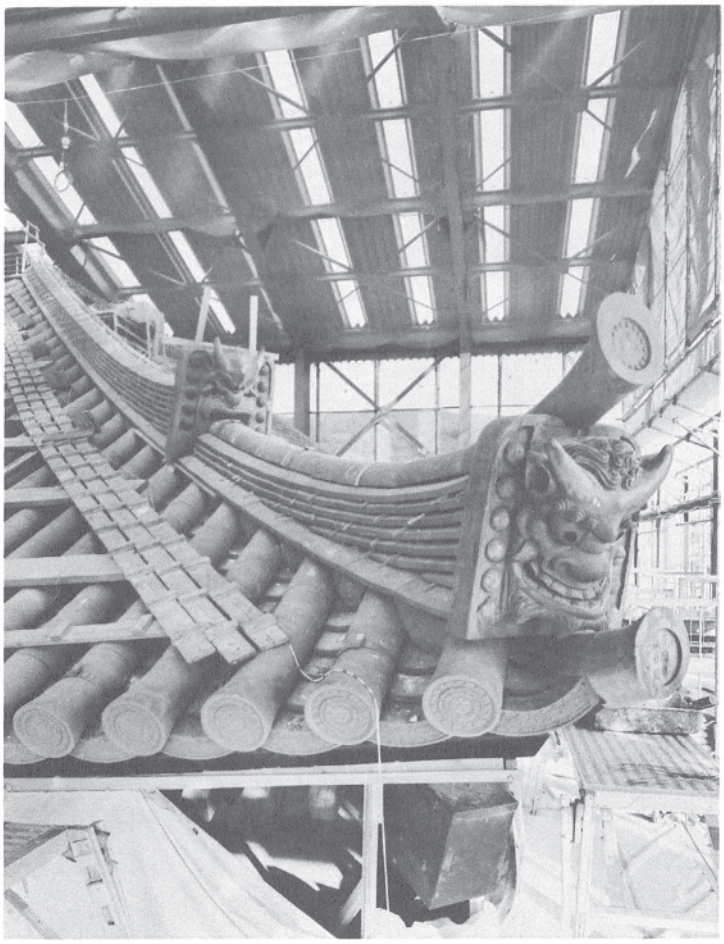


121　東北隅棟棟積施工中

北より見る。鬼瓦を据え付け、台熨斗瓦を並べたところ。修理前の二の鬼瓦は割れており、また隅棟用の鬼瓦でないものが使われていたので、今回の修理で一の鬼瓦に倣って製作し、取り替えた。

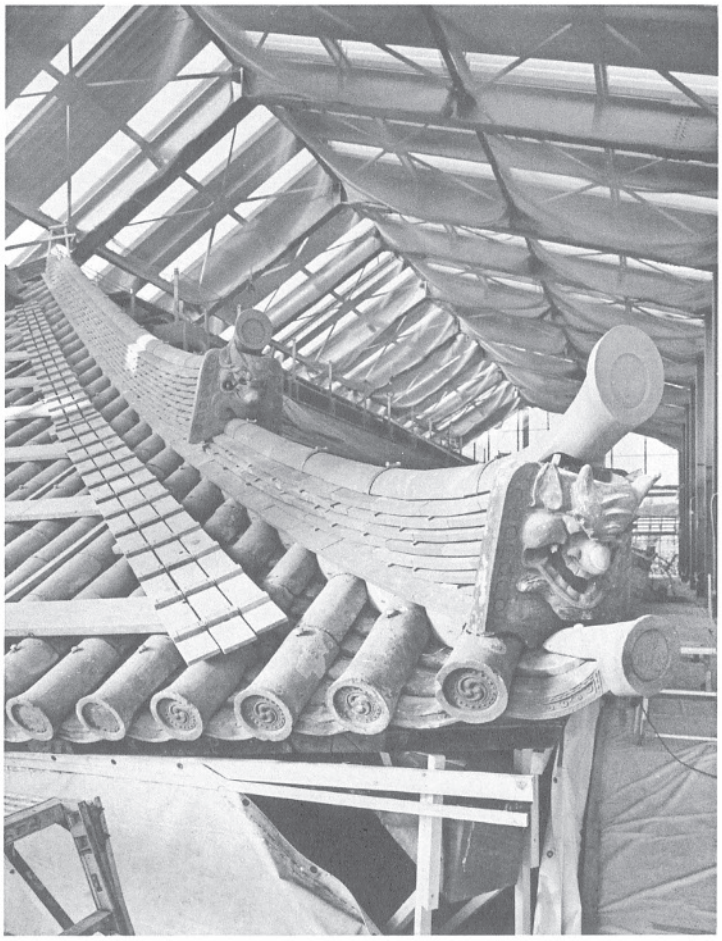
122　西北隅棟棟積施工中

北より見る。稚児棟は積み上がり、二の棟の割熨斗瓦を積んでいるところ。



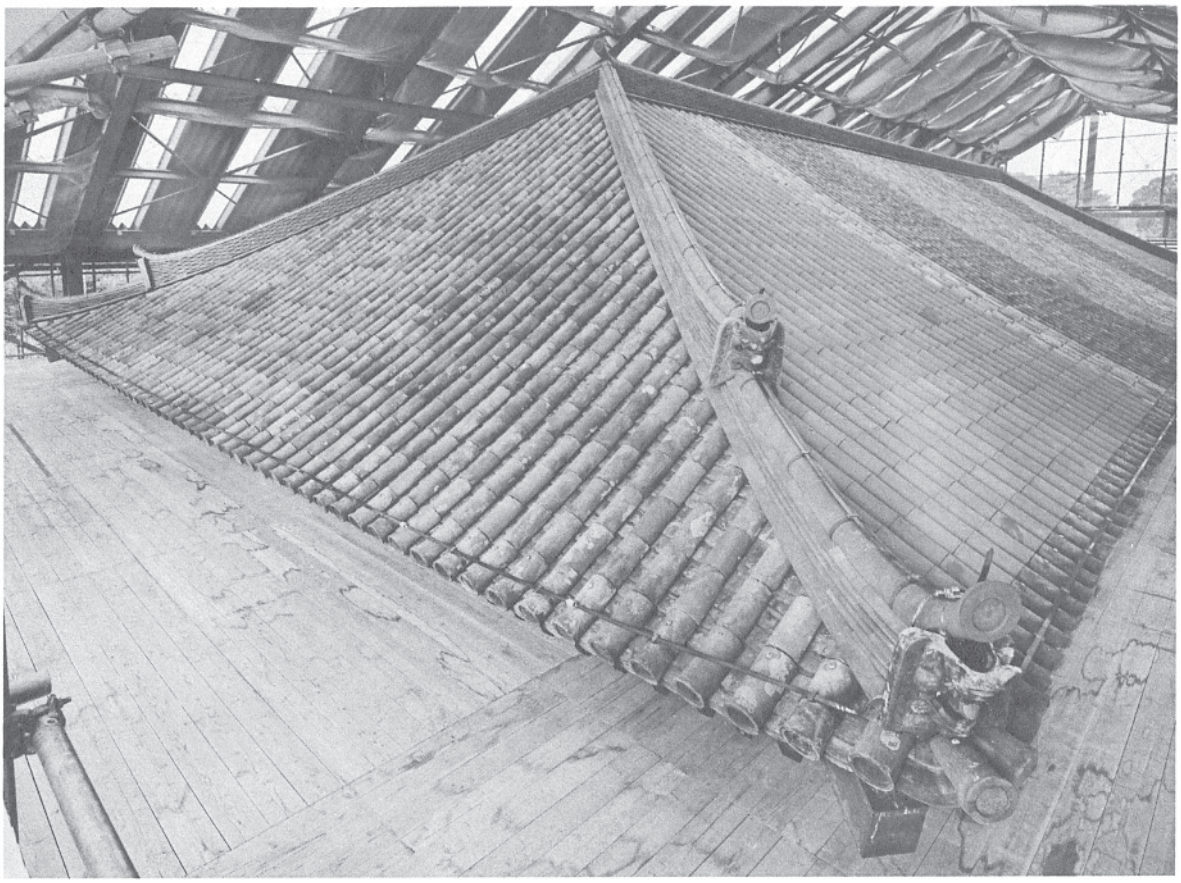
123　西南隅棟棟積施工中

西より見る。稚児棟は積み上がり、二の棟の割熨斗瓦をほぼ積み上げたところ。この隅棟の鬼瓦はほかのものよりもかなり大きく、稚児棟の捨熨斗瓦は1段多く積んで棟高を調整している。



124　東南隅棟棟積完了

南より見る。隅棟の完了したところ。稚児棟は3段、二の棟は8段積とし、鬼際にはそれぞれ捨熨斗瓦を入れた。



125　南面及び東面の本瓦葺葺き上がり
東南より見る。南面及び東面は再用瓦を中心に葺き直した。

126　北面及び西面の本瓦葺葺き上がり
西北より見る。北面及び西面は今回の修理で製作した現代製法の補足瓦で葺き上げた。